

外飼いだっただ猫を室内で飼育するために

外で世話をしていた猫が近所で迷惑行為をしてしまう場合、まず考えてほしいのが室内飼育への変更です。今まで外で自由に生活していた猫や人馴れしていない猫を室内で飼うことには抵抗や不安もあるでしょう。しかし外飼いだっただ猫を室内で飼うことは必ずしも不可能なことではありません。保健所に引取りの相談する前にぜひ試してください。

●まずは必ず完全ケージ飼いを行いましょう。

猫にとって環境が変わる最初のタイミングが最も重要です。新しい環境が安全で安心できる場所だとわかれば今後の室内での生活もストレスにはなりません。また狭い場所から少しずつ新しい環境に慣れさせて徐々に人との距離を縮めていくことは、家の中で野良猫状態になることを防ぎます。保護したその日から（個体によって）最低1週間～1ヶ月は**完全ケージ飼い**をしてください。

- 猫は上下運動が必須です。ケージは高さのある**猫用ケージ**を用意します。またケージの中で生活ができるようトイレ・水・ベッドなど最低限のものを用意しましょう。
- 猫は初めての場所では暗くて狭い隠れられる場所を求めます。ケージの上部はタオルケットで覆い、天井が抜けられないよう配慮しましょう。
- ケージは必ず静かな場所に設置してください。あまり広すぎない部屋が理想です。リビングなどのテレビの音や人が集う賑やかな場所では落ち着かず、トイレの失敗につながります。
- 外での生活が長かった猫はケージの中で「暴れる」「騒ぐ」「トイレをひっくり返す」といった行為が必ずあります。**ですが次第にケージにも慣れてきます**ので「うるさいから」「かわいそうだから」という理由で決してケージから出さないようにしましょう。
- 次第に慣れてきてケージから出す場合、最初はケージを置いた部屋に限定します。飼い主の目が行き届き猫の行動を把握できる範囲であることが重要です。またケージの外に出っぱなしにせず、目を離すときやエサをあげるときと寝るときはケージに戻すようにしましょう。ケージが猫にとって安全で大切な場所になるよう印象づけます。
- **速やかに不妊去勢手術を行いましょう**。メスの発情による脱走を防ぐことができ、またオスの臭気も軽減されます。



まずは、ケージの中が安心できる場所だと伝えること・守られたケージの中で新しい環境に慣れさせることが大切です。何かがあったとき「逃げ込める場所＝ケージ」になると脱走の防止にもなります。